

★学校教育目標		◎よく考える子ども ○なかよくする子ども ○がんばりぬく子ども ○体をきたえる子ども		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		【めざす児童・生徒像】 ○自ら気持ちを表現したり方法を発付けたりし解決するために能力を発揮できる子供 ○豊かな心と好ましい人間関係を育てる子供 ○自分にふさわしい目標を設定し最後までやり抜ける子供 ○進んで運動に親しみ自らの安全と健康に向かう子供 【めざす学校像】 ○子供たちが互いに学び合い成長する学校 ○安心して自分の力が発揮できる学校 ○教職員が情熱とプロ意識をもって実践し達成感のある学校 ○学校・保護者・地域が連携し信頼し合う開かれた学校 【めざす教師像】 ○明るく前向きで心身共に健康な教師 ○子供を見つめ認め一人一人を大切にできる人間性ゆたかな教師 ○専門性の向上に努力するプロ意識をもった教師 ○保護者・地域と連携し児童の健全な育成にあたる教師		国や都、市等の教育施策に基づき、本校の学校教育目標の実現のために、次のような取組を推進していく。①よく考える子ども…ユニバーサルデザインの環境のもと、ICT機器等を活用し、発達段階を理解した指導をすることで、基礎基本を定着させる。言語活動を日常的に行い、思考力、判断力、表現力の育成を図る。②なかよくする子ども…道徳教育や人との関わりを通して、自他の生命を大切にすることや人権意識、豊かな心を育む。③がんばりぬく子ども…自分の目標に向かって、その達成のために学習や運動に取り組む姿勢を育てる。④からだをきたえる子ども…このような姿勢を育てるための基となる心の安定と体力・知力の向上を目指す。体育・保健・食育を通して、生きる意欲と活力をもった「旭っ子」を育てる。	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
確かな学力	どの児童も参加し、分かる授業・魅力ある児童主体の授業デザインを構築する。	学力の基盤となる基礎的・基本的な知識及び技能の習得のために、ユニバーサルデザイン化した授業づくりを推進し、実践する。	ひのスタンダードに基づいたどの児童も居心地のよい学校環境を整える。どの児童も参加できる授業について全教職員で共通理解し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて、どの児童も参加できる指導を実践する。	4	どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善をする教員が100%	4	児童のアンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が90%以上	教員は一人一人の子供に時間ある限りていねいに対応し理解している姿が見られる。創意工夫して授業改善を目指していることはありがたい。「分かる」と「できる」ことは異なるので、学んだことが確実に自分のものになるように改善を進めてほしい。個別の対応ができれば11.1%の子供もできたと思えるようになると思う。支援員を有効に活用するとよい。	全教員が授業改善をしたと回答した。(昨年比10.0ポイント増) 授業で分かったり、できるようになることが増えたりと感じた児童は88.9%(昨年比11.1ポイント減)である。教室環境の整備や授業方法の工夫が見られる。11.1%の子供も「わかる」「できる」を体感することができるように個別最適化した学習方法を工夫する。
				3	どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善をする教員が95%以上	3	児童のアンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が85%以上		
豊かな人間性	自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動を行う。	身に付けた知識・技能を、よりよく生きるために創意工夫する力に結び付けられるよう、対話を通して学び学習を行う。	各教科等や学級活動において言語活動の充実を図りながら、自分の考えを伝え合う活動を計画し、指導の改善を図る。校内研究を通して対話力を高めるための指導に取り組む、児童が学んだことを踏まえて考えをもち、対話を通して思考・判断し深く考える経験を重ねる。	4	対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施する教員が100%	4	児童のアンケートで、「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が95%以上	自分の考えを伝えることができる児童が72.5%いることは、かなり高いと考える。目標とする水準が高すぎたのではないかと、分かっていても発言することを苦手に思う子供もいると考えられるので、伝えることがうまくできるよう指導していただきたい。身近な話題で簡単な会話を繰り返していくことで慣れていくこともある。子供たちは本が好きなので、手に取ればわくわくするような書籍を学級に配置し、表現すべき語彙力を増やしていくこともよいのではないかと。	全教員が対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施したと回答した。(昨年と同水準) 校内研究を通して授業が変わり、教員は児童が変化してきたことをつかむようになった。これに対し、授業中に自分の考えを伝えられたと感じている児童は72.5%であった。残りの児童は自分の考えをうまく伝えられないと感じている。積極的に発言する一部の児童の言葉で授業が進行していることはなかったか、児童が考えを表現したことについて適切に価値付けすることができているかという点で授業をふり返り、全ての児童が考えを伝えられたと感じられるように工夫改善することが必要である。
				3	対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施する教員が80%以上	3	児童のアンケートで、「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が90%以上		
わくわく	自分を大切にするとともに他人を大切に生きていく豊かな人間性の育成を推進する。	児童が生命の尊さや生きる喜びについて実感し、考えを深めることで、自他の「いのち」を大切にしようとする心や相手を思いやる心を育む。	全教育活動を通して道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図るとともに、児童の体験的な活動を取り入れ、生命の尊さを実感的に学べるようにする。旭が丘小学校「いじめ防止」基本方針に基づく、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めるとともに、SCや巡回相談員、SSWとも連携し、児童を守っていく。また、居心地のよい学校づくりに努める。	4	子供同士が望ましい人間関係づくりができるよう取り組む教員が90%以上	4	児童のアンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が95%以上	楽しいことは全ての原動力である。「学校が楽しい」と思える子供が増えたことは素晴らしい。先生に褒められた、話を聞いてもらったということは子供にとって宝であるので、可能な限り続けてほしい。楽しいと答えていない子供に寄り添い、なぜ楽しくないのか、どうしたら楽しくなるのか一緒に考える学校であってほしい。	児童同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組んだ教員が95.2%(昨年比4.8ポイント減)であった。学校が楽しいと答えた児童は88.0%(昨年比2.2ポイント増)である。教員は休み時間に児童とともに校庭に出て活動するようにしてきたことから担任との関係はおおむね良好であったと考えられる。子供たちの活躍する場面を増やし、自己肯定感を高めていくことが必要である。
				3	子供同士が望ましい人間関係づくりができるよう取り組む教員が80%以上	3	児童のアンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が90%以上		
健康	学習指導要領の趣旨を踏まえ、旭が丘小学校らしい教育活動を展開する。	体育科の授業や体育的活動、外遊び等を通して、運動の日常化を図るとともに、自分の体や心の健康にも目を向けさせ、体育・保健・食育を通して体力の向上を目指す。	体力向上を目指して、体育科授業において運動量を確認した授業を展開したり、定期的に休み時間における学級全員により外遊びの実施を進めたりする。学校全体で取り組む体育的行事を通して、協力して楽しく取り組みながら、挑戦する意欲を高める。また、日々の保健や食育指導を通し、健康な体をつくっていくことの大切さを伝えていくことで、自分の体や心についての関心をもたせ、児童の心の安定を図る。	4	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員が90%以上	4	児童のアンケートで、「休み時間は外遊びや運動などしている」と答える児童が95%以上	教員が子供たちのために時間を共有していることをよく見かける。子供たちの様子を見る限り、体力が落ちているとは思えない。個々の体力の差もあるので、無理に外に出されるのはつらいと感じている子供がいるのではないかと。成長期に外に出て目を浴びることが大事さを伝えるとともに、自分から外に出たいと思えるような活動の提供ができることよい。また、遊具を安全に使用することができるように、地域の人材を活用することができることよい。	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員は90.0%(昨年比10.0ポイント増)であった。休み時間は外遊びや運動などをしていない児童は80.9%(昨年比3.6ポイント減)であった。休み時間に教室で生活する児童が増えていることが生活指導上の課題として挙げてきた。一律一斉に技能の習得を目指すことから、運動の特性に照らして個に応じた楽しみ方ができる体育の授業に転換していくことが必要である。
				3	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員が80%以上	3	児童のアンケートで、「休み時間は外遊びや運動などしている」と答える児童が90%以上		
地域	わくわくが広がっていく環境のデザインを構築する。	本校をとりまく教育環境を生かし、自然や人と共生し、相手を思いやる豊かな心を育成する取組を行う。	児童が地域や郷土を知り、誇りをもち、進んでかわろうとするようになるために、雑木林を活用した授業、社会科学習や総合的な学習の時間、特別活動等において見学したり地域の方と関わったりする活動を行う。取材や対話・体験を通して子供自らが地域のためにできることを考えさせる。	4	地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が80%以上	4	児童のアンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が90%以上	学校では多種多様な経験ができるようにしていることがうかがえる。旭が丘小にある日本一の雑木林をもっと活用すべきである。子供たちにとってわくわくする場所になってほしい。地域の協力もあり、安心して楽しめる場所になってきている。もっと雑木林に入ることができるようになるとよい。この林を活用してサマースクールなどのイベントを開き、心に響く学びができる機会を設けることもよいと考える。	地域や本校の特色ある環境を活用して授業を行う教員は76.1%(昨年比16.1ポイント増)であった。感染症による行動制限が緩和されたため、校外での活動が増えたことによると考える。これに対して地域又は雑木林での活動は楽しいと答えた児童は85.5%(昨年比3.0ポイント減)であった。「校外に出ること自体の楽しさ」から「思考したり行動したりして知見を広げる楽しさ」を体感させる授業を生活科や総合的な学習の時間等で実施することが必要である。
				3	地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が75%以上	3	児童のアンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が80%以上		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。